



食品のトレーサビリティについて

食品トレーサビリティとは？

食品トレーサビリティとは、「食品の移動を把握できること」

各事業者が食品を取扱った際の記録を作成し保存しておくことで、食中毒など健康に影響を与える事故等が発生した際に、問題のある食品がどこから来たのかを調べたり(遡及)、どこに行ったかを調べたり(追跡)することができます。

食品トレーサビリティの概要

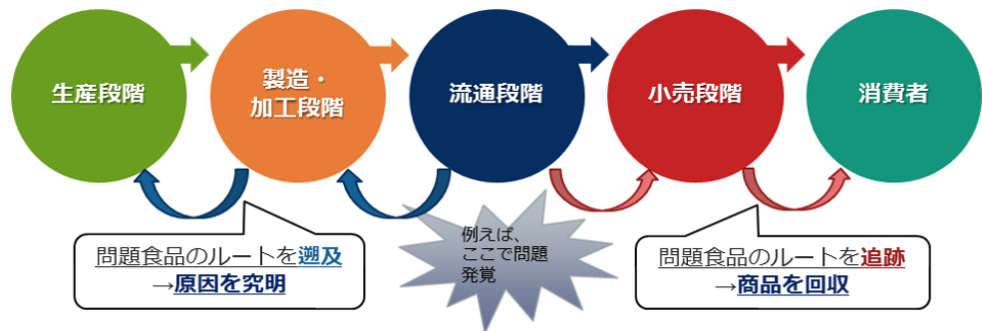
食品トレーサビリティによって、万が一食品に異物混入等の問題が発生した場合には、各段階での記録等を確認し、遡及・追跡することで、その問題の原因究明や商品回収等がスムーズに行えます。

食品の流通経路の時間軸に沿って、フードチェーンの川下へと記録を追うことを、トレースフォワード(追跡)といいます。例えば、ある商品の原材料に異物の混入があったことが発覚した際、その原材料が使われている商品を特定し、商品回収する範囲を絞って対応することができ、被害を最小限にすることが可能となります。

逆に、食品の流通経路の時間軸を遡り、フードチェーンの川上へと記録を辿ることをトレースバック(遡及)といいます。

例えば、出荷した商品に問題が発生したとき、その影響があるロットや工程を特定し、原因をいち早く調査することが可となります。

(農林水産省 HP より抜粋)



トレーサビリティの必要性

食品トレーサビリティの仕組みを導入することのメリットは、問題のある商品の原因究明と対象となる商品の範囲を絞って迅速に回収することが可能になるという点です。

そのため、食品トレーサビリティは、「品質管理」の意味でも必要な取り組みと言えるでしょう。

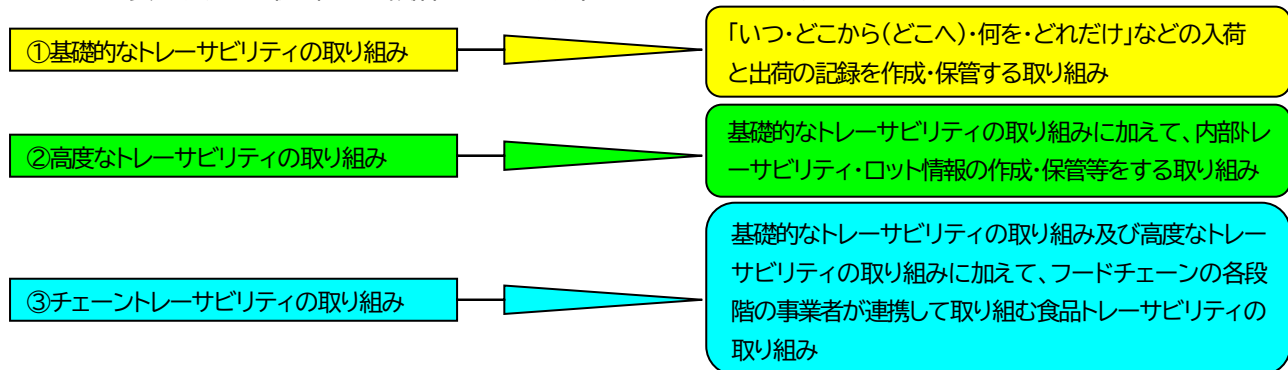
日本では、BSE 問題の発生により「牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法」が定められ、「牛トレーサビリティ」が義務化されました。また、事故米問題の発生を受け、「米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律」が定められ、「米トレーサビリティ」も義務化されています。



トレーサビリティに必要なこと

食品トレーサビリティを導入するうえで大切なことは、その目的を明確にすることです。

食品トレーサビリティの目的としては、「食品の安全を確保すること」「情報の信頼性を高めること」「業務の効率を上げること」などが挙げられます。なお、食品トレーサビリティへの取り組みについても、現在の状況に応じて段階的に進めることが重要です。その取り組みの段階としては、以下の3つがあります。



(参考資料 農林水産省 HP トレーサビリティ関係)